

聖 霊

第 12 回 聖霊の賜物

□アウトライン

- A. 全部でその数 19、それらの名称
- B. それぞれの賜物について
- C. 重要度に順位あり
- D. 使徒と預言の賜物は終了した
- E. すべての信者が一つ以上の賜物を与えられている

A. 全部でその数 19、それらの名称

ロマ 12：6～8 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

- 七つの賜物・・・預言、奉仕、教え、勧め、分け与える、指導、慈善

エペソ 4：11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。

- 三つの賜物・・・使徒、【預言者】、伝道者、牧師－教師 【 】はカウント済み

I コリ 12：7～10 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。

- 八つの賜物・・・知恵のことば、知識のことば、信仰、癒やしの賜物（複）、奇跡（複）のわざ（複）、【預言】、霊の見分け、種々の異言、異言の解き明かし

I コリ 7：7 私が願うのは、すべての人が私のように独身であることです。しかし、一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります。

- 一つの賜物・・・独身

B. それぞれの賜物について

1. 使徒・・・イエスの公生涯を共にしたか、復活のイエスに出会った弟子の中から立てられた。使徒はイエスの復活の証人であるから。使徒の権威については、ヨハ 20 : 23。
 2. 預言・・・新約時代の啓示を受ける
-
3. 伝道者・・・信者はみな、少なくとも一つの伝道の働きをすることができる。福音を聞いて自分は救いを受けた、という証言である。伝道の賜物を持っていれば、そのレベルはもっと上がり、多くの人をメシアのもとに連れて来る。
 4. 牧師－教師・・・牧師は同時に教師でもある。なぜなら、牧師は教える賜物を必要とする。群れを養うためには、みことばの真理を教えることが必要だからである。
 5. 教え・・・みことばの真理を体系的に整理し、分かりやすく説明する
 6. 勧め・・・教えられた真理を実際の生活に適用するように勧める
 7. 知恵のことば・・・聖書に基づく霊的な知識を用いて、具体的な問題を最適な結果につなげる。知識のことばの賜物を持っていることが前提。
 8. 知識のことば・・・聖書を十分に理解し、みことばのつながりを把握する
 9. 霊の見分け・・・神の霊から来ているのか、サタンから来ているのか、見分けることは、すべての信者がするべきであるが、この賜物を受けた人は、瞬時に見分ける
-
10. 奇跡（複）のわざ（複）・・・いつでも行使できるのではなく、神のみこころによる
 11. 信仰・・・困難の中で少しの疑いもなく、神を信頼する
-
12. 癒やしの賜物（複）・・・いつでもだれをも癒やせるのではなく、神のみこころによる
 13. 分け与える・・・すべての信者は自分の心で決めたとおりに喜んで献金する。この賜物を受けた人は、収入に対する献金の割合が大きい。
 14. 慈善・・・病人や助けを必要としている人に手を差し伸べて慰め助ける
 15. 指導・・・群れを指導する、長老の役割を担うのに必要な賜物
 16. 奉仕・・・兄弟姉妹に仕える、監督や執事の役割を担うのに必要な賜物
 17. 種々の異言・・・自分では習得したことのない言語により、聖書の真理を語る
 18. 異言の解き明かし・・・異言で用いられた言語を知らないが、その意味を解き明かす
-
19. 独身・・・結婚せずにいても、自制できる（I コリ 7 : 9）

C. 重要度に順位あり

使徒パウロは、コリントの教会へ宛てた手紙の中で、聖霊の賜物の順位を、重要度の高いものから低いものの順に列挙している。

I コリ 12:27～28 あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。神は教会の中に、**第一に**使徒たち、**第二に**預言者たち、**第三に**教師たち、**そして**力あるわざ、**そして**癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

- 力あるわざ(works of power)・・・この順位には、10 節の「奇跡を行う力(workings of powers) = 奇跡のわざ」と 9 節の「信仰」、これら 2 つの賜物が該当する。

次の表の左側が、重要度に応じた 5 つの順位である。右側は 19 の賜物がどの順位に該当するかを示す。

重要度に依じて 5 つの順位		賜物は全部で 19		
I コリ 12 : 27～28		ロマ 12 : 6～8	エペソ 4 : 11	I コリ 12 : 7～10
第一	使徒たち		使徒	
第二	預言者たち	預言	(預言者)	(預言)
第三	教師たち	教え 勧め	伝道者 牧師－教師	知恵のことば 知識のことば 霊の見分け
第四	力あるわざ			奇跡のわざ 信仰
第五	癒やしの賜物			癒やしの賜物
	援助	分け与える 慈善		
	管理	指導 奉仕		
	種々の異言			種々の異言 異言の解き明かし

7

3

8

I コリ 12 : 31 あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。【教会としての求め】

I コリ 7 : 7

独身

D. 使徒と預言の賜物は終了した

1. 教会の土台はすでに据えられた

エペソ 2:20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。

2. 新約聖書の奥義はすべて使徒たちと預言者たちに啓示された

エペソ 3:5 この奥義は、前の時代には、今のように人の子らに知らされていませんでしたが、今は御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されています。

3. 結論・・・「使徒の賜物」と「預言の賜物」は終了した。普遍的教会は、使徒たちと新約時代の預言者たちの土台の上に、建て上げられている。建設中に新たに土台が加わることがないのと同様、使徒や預言者が新たに登場することもない。

E. すべての信者が一つ以上の賜物を与えられている

1. すべての信者が少なくとも一つの賜物を持っている

I ペテ 4:10 それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。

2. 聖霊の賜物は、「みからだ」(キリストのからだ、目に見えない普遍的なひとつの教会)を建て上げるために用いられる。一人の信者がすべての賜物を持つことはない。互いに必要とし合う関係である。

ロマ 12:4~8 一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

エペソ 4:1~16 さて、主にある四人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。

あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです。

しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。・・(中略)・・こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合われ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

3. 信者は、神から授かった賜物を、謙遜に忠実に活用する責任を負っている

I ペテ 4:10 それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。

I コリ 12:4~11 さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。

皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。

ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことば

が与えられています。ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を与えてくださるのです。

4. 自分の賜物を見出すには

- (1) 知る：聖霊の賜物とは何であるかを聖書から学ぶ。
- (2) 動く：地域教会に属して、何らかの働きをする。それがどう働いたか観察する。
【うまくいったか、成功したか】よりも、皆の益となったか、が大切。
- (3) 他の賜物を発見する：信者にはひとつだけでなく、二つ以上の賜物を与えられていることがあることを前提にして、動いていく。

5. 賜物を用いるときの3つの段階

第一段階 聖霊の交わり（まず、父なる神との交わり。次に、兄弟姉妹との交わり）

第二段階 聖霊の満たし

- ① 自分の人生を神に捧げる
- ② 責められる点がないように生活する
- ③ 罪の性質（肉）ではなく、新しい性質（霊）と内住の聖霊に従って歩む
- ④ メシアの律法に従順、神の命令を守る。失敗して罪を犯したときは、罪を言い表す祈りをして、神にきよめていただく

第三段階 賜物を用いる。謙遜に、忠実に

6. 聖霊の賜物であるかどうかのテスト

I コリ 12：3 ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

賜物を用いる出発点、そして到達点は、イエスを主として証しすること。

「イエスは主です」という明確な表明がなされているかどうか、それによって本物か偽物かが識別できる。